

## megumi に乗ってびわ湖の中をのぞいてみよう!! ②

2015年の環境学習船 megumi による親子環境学習の第2回目が7月27日に開催されました。7月24日に続いての連続開催です。保護者19名、児童25名が参加しました。その他に講師の方やスタッフ等が乗り組んで9時45分に大津港を出航しました。心配された台風12号も熱帯低気圧に変わり、ほとんど影響を感じさせない予想以上の好天の下でのスタートでした。

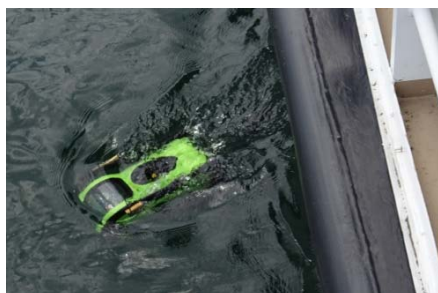
オリエンテーションの後、立命館大学の熊谷先生（びわ湖トラスト理事）からビデオを使用して琵琶湖についていろいろ教えていただきました。びわ湖に渦巻状の流れ（環流）があることなど、初めて聞く話だったかもしれませんね。ここまでの進行は24日の学習プログラムと同じです。

熊谷先生のお話がすむと今度は立命館大学の川村先生（びわ湖トラスト顧問）からロボットについてのお話を聞かせてもらいました。ロボットの定義の説明で駅の自動改札機もロボットの仲間だと教えてもらい、手足のついたロボットが頭の中にある子供たちは目を丸くしていました。



先生のお話が続いていよいよ水中ロボット操作の見学です。北湖の観測地点で水中ロボットが湖中に投入されました。川村先生の教室の立命館大学の学生さんが運転操作をします。

水中ロボットはぐんぐん降下しモニターへ水面下65mの湖底の映像を映し出しました。湖中遊泳の後、児童に水中ロボットの操縦を体験させてもらえることになり、じゃんけんゲームで勝ち残った数人の児童が学生さんに操縦を介助してもらいながら水中ロボットを操作してみました。ゲーム機のジョイスティックになれた子供さんたちには意外と難しくなかったのかもしれません。



続くプログラムはお待ちかねのソーラーボートの制作です。子供さん一人一人全員につくってもらいます。

空のペットボトルにソーラーパネル、モーター、スクリューなどを取り付けるだけの簡単なものですが、作成図を参照し、また保護者やスタッフの人に教えてもらいながらなんとか組み立てられました。

完成した子供からデッキに出て、日光の下でスクリューが回るか確かめました。スクリューは勢いよく回転し、全員合格です。大津港へ帰って試験航行するのが楽しみです。





午前の部を終え、船は沖島へ向かいました。船内で昼食をとり終わった頃に沖の白石が見えてきました。さらに船は多景島の周りも一巡してくれました。このように湖上から間近にびわ湖に浮かぶ島を見るのは、親子ともども初めての人がほとんどの様で、デッキから熱心に見ていました。



沖島に到着、沖島の概要について説明を聞いた後、島に上陸です。1時間足らずの散策に出かけました。



この日も沖島漁業会館の売店は大賑わいで、中でも特産品のブラックバスの入ったコロッケ（よそものコロッケ）は大人気でした。



沖島散策の後半に雨が降り出しました。船に戻って大津港への帰途に着きました。船内で琵琶湖汽船の中村さんが湖面と湖底の温度差で水が循環する「びわ湖の深呼吸」のモデル実験をしてくれました。また「ミクロの生態系」というビデオが放映されびわ湖の多様なプランクトンやプランクトンの生態を学びました。



琵琶湖大橋をくぐって南湖に戻ってくる頃には、雨も降っておらず日が射してホッとしましたが、16時過ぎに大津港に帰港した時にはまた日が陰ってしまいました。下船して集合写真を撮った後、急いで近くの噴水池でソーラーボートの試験運行を行いました。日照が足らず、スクリューを回転させるのに十分な出力が得られず、残念ながらソーラーボートは前進しませんでした。

各自が作製したソーラーボートは持ち帰ってもらい、天気の良い日にお家で再チャレンジしてもらうことにして解散しました。



最後に本行事を共催、助成頂いた公益財団法人平和堂財団と協賛頂いた琵琶湖汽船株式会社に厚く御礼申し上げます。

(藤田理事 記)